

同時発表：東北地方整備局  
関東地方整備局

令和元年 12 月 5 日  
水管理・国土保全局砂防部

## 「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」を設置 ～12月9日に現地調査会を開催～

国土交通省では、「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」を設置します。

検討会の開催に先立ち、台風第19号により発生した土砂災害の中でも象徴的な箇所として、宮城県伊具郡丸森町の土砂・洪水氾濫、群馬県富岡市内匠の緩やかな斜面における崩壊性地すべりの発生箇所を調査します。

国土交通省では、気候変動に伴い地域毎に顕在化の懸念される土砂移動現象及び砂防計画に必要な関係諸量(土砂量等)の評価手法の高度化等の技術的な検討を行うため、「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」(開催趣旨は別紙-1を参照)を設置します。

検討にあたり、以下のとおり、現地調査会の開催を予定しています。

1. 日時 令和元年12月9日(月) 9:00～15:45
2. 委員 別紙-2のとおり
3. 行程

日付	時刻	内容
12月9日	9:00～10:00	①現地調査(宮城県伊具郡丸森町)
	14:00～15:00	②現地調査(群馬県富岡市内匠)
	15:00～15:45	意見交換(富岡合同庁舎1階大会議室)

※15:45～16:00 ③ぶら下がり会見(富岡合同庁舎1階大会議室前 別紙-3)

#### 4. その他

- ・現地調査会に関して意見交換終了後に座長による③ぶら下がり会見を行います。
- ・現地調査における取材については、安全確保のため①宮城県伊具郡丸森町における指定した場所でのカメラ取りのみとさせていただきます。②群馬県富岡市内匠の現地調査は安全管理の観点からご遠慮願います。
- ・①の現地調査もしくは③ぶら下がり会見の取材は報道関係者限りとさせていただきます。
- ・①の現地調査の取材もしくは③ぶら下がり会見への参加をご希望の方は、12月6日(金)12時迄に、取材希望箇所(①もしくは③)、会社名、氏名、連絡先(メールアドレスおよび電話番号)を以下の問い合わせ先までFAXにより連絡をお願いします。
- ・天候等により、予定が変わる可能性があります。中止となる場合は頂いた連絡先に連絡します。
- ・当日は、集合場所に開始時間までに(別紙-3)にお集まりください。

#### 問 い 合 わ せ 先

国土交通省 水管理・国土保全局

砂防部 砂防計画課 課長補佐 鈴木 啓介(内線36-136)、係長 赤澤 史顕(内線36-135)

TEL: 03-5253-8111(代表)、03-5253-8466(直通) FAX: 03-5253-1610

## 「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

### 開催趣旨

IPCC 第 5 次報告書においては、気候システムの温暖化には疑う余地がなく、21 世紀末までにほとんどの地域で極端な降水がより強く、より頻繁となる可能性が非常に高いことなどが予測されると報告されている。

このような中、平成 28 年北海道・東北地方を襲った一連の台風に伴う豪雨、平成 29 年九州北部豪雨、平成 30 年 7 月豪雨、令和元年台風第 19 号に伴う豪雨など、近年、激甚な土砂災害を伴う豪雨が頻発している。気象庁においては、平成 30 年 7 月豪雨は地球温暖化の影響があったとしている等、既に温暖化の影響が顕在化しつつある状況と認識される。

今後のさらなる降雨特性の変化に伴い激甚化が予想される土砂災害に対し、適切な対策を講じていくためには、これらの降雨特性の変化に伴う対策の検討・実施に必要な関係諸量（土砂量等）の変化を適切に評価する必要がある。しかしながら、気候変動による降雨特性の変化により、どのような土砂災害の原因となる土砂移動現象（以下、「土砂移動現象」と言う。）が顕在化するか十分な科学的・技術的裏付けがされているとはいえない。また、土砂移動現象は、地質や地形、気候条件などの影響を受け、地域ごとに異なる可能性も考えられる。

そこで、本検討会においては、気候変動による降雨特性の変化により将来発生・顕在化が懸念される地域毎の土砂移動現象及び対策の検討・実施に必要な関係諸量の調査・評価手法の高度化等を図ることによって、土砂災害対策分野における気候変動への適応策の実施に資することを目的とする。

「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

委員名簿

内田 太郎	筑波大学 生命環境系 准教授
執印 康裕	宇都宮大学 農学部 教授
中北 英一	京都大学防災研究所 教授
◎ 藤田 正治	京都大学防災研究所 教授
堀田 紀文	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授
松四 雄騎	京都大学防災研究所 准教授

◎：座長  
(敬称略、五十音順)

